

私たちがめざすのは、
循環型(持続型)の農業です



①従来、輸入に大部分を頼っていた家畜飼料の自給率の向上を図り、畜産物を安定的に供給していくこと
②食料の生産だけでなく多くの機能を持つ水田を減らさず、若い農業者も意欲的に農業を継続できること
この大きな2つの目的のために、稲作農家と畜産農家、加えて行政、研究機関、流通関係者などあらゆる関係者が協力して「お米を畜産物に活用していく」と協力を進めています。

このロゴマークは、お米で育った畜産物の取組を進めるために作成しました。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本養豚協会 (JPPA)
ホームページ : <http://okome-sodachi.jp/index.html> 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 TEL: 03-3370-5473 FAX: 03-3370-7937



日本の田んぼをフル活用



お米で家畜を育てます

日本の田んぼをフル活用



水田はお米を生産することだけでなく、水の浄化機能や洪水や土砂崩れの防止、様々な生き物の住みかとなるなど、日本の国土と私たちの環境や生活の維持に大きな役割を果たしています。

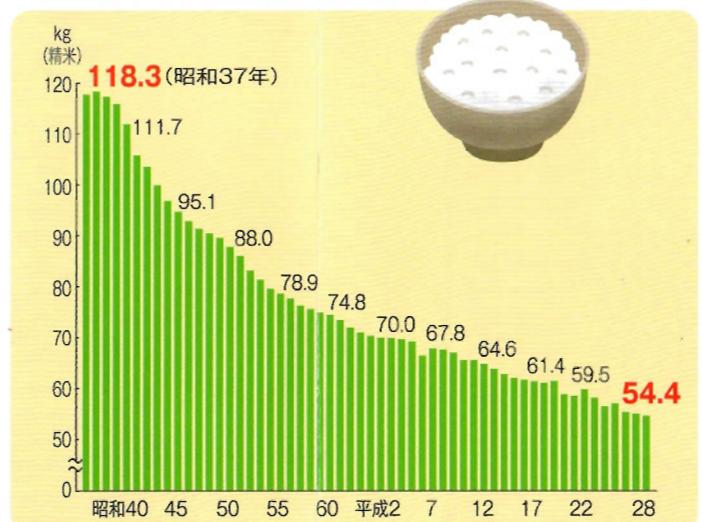
一方、少子・高齢化や食生活の変化などにより、ごはんとして食べるお米の消費量は平均して年に8万トンずつ減少し、今後もその傾向は続くことが見込まれ、耕作放棄地が増加する恐れがあります。

このため、水田をフル活用して耕作放棄地を解消し、食料自給力を維持・向上させるため、飼料用米などの生産を始めています。

お米の消費は減少

食生活の変化や少子・高齢化により、昭和37年をピークに日本人が食べるお米の量は毎年約8万トンも減少し、平成28年度の一人当たりの米の消費量は54.4kg^{注1)}です。この50年間で半分以下になったことになります。残念ながら、お米の消費量は人口減少、少子・高齢化などの影響により、今後も減少傾向で推移すると見込まれます。

●米の年間1人あたり消費量の推移

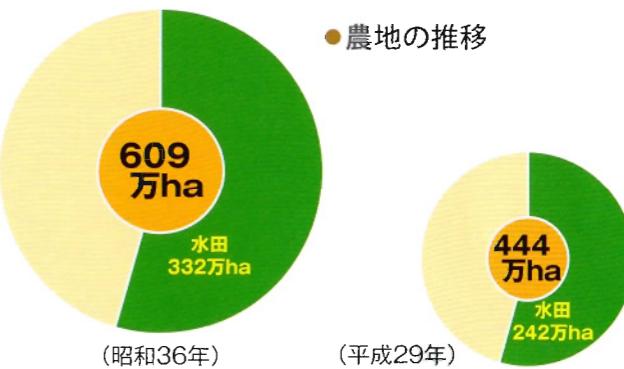


耕作放棄地にしないために

需要に合わせて作付を減らしていくと、水田の持つ「日本の環境や国土を守る」という重要な機能を失わせることになってしまいますし、日本の農業の衰退にもつながります。

実際、昭和36年に609万ha(うち水田332万ha)あった農地は、平成29年には444万ha(うち水田242万ha)と4分の3ほどに減少し、耕作放棄地が年々増加するという状況になっています。長年放置された農地は、再生が困難となってしまうことも多く、何より今ある水田を耕作放棄地にしないことが重要です。

このため、水田のフル活用として、食用米のほか飼料用米などの生産を行っていくことは、水田としての機能維持や農家の経営安定を図り、ひいては飼料自給率の維持・拡大につながっていく大切な取組です。



●私たちが飼料用米を利用して育てたおいしい畜産物を提供します！

飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト 受賞者の皆さん



【農林水産大臣賞】



「日本の米育ち 平田牧場の金華豚・三元豚」

株式会社平田牧場(山形県)

- 品種や飼料にこだわり、日本のお米をあたえて健康に育った平田牧場の金華豚・三元豚は、上質な脂が特徴です。
- 肉のきめが細かく、真っ白で甘く舌先でとろける上質な脂肪は風味の違いを決定づけます。また、プロの料理人からも高い評価を受けています。



【農林水産省 政策統括官賞】



「豊の米卵」

有限会社鈴木養鶏場(大分県)

- 卵味分析では、一般的な鶏卵と比較し旨味や甘味が強く、まろやかな味わいです。
- コレステロールが低く、ビタミンB1、他のB群、ビタミンEなどが多い特徴があります。



【JA全中 会長賞】



「玄米育ち岩手めんこい黒牛」

農業生産法人有限会社キロサ肉畜生産センター(岩手県)

- 隔月一頭毎に体重測定を行い、健康チェックや出荷の適齢期を見極め、徹底した個体管理を実施しています。
- 獣医師と連携し健康な牛づくりに邁進します。
- 地元産の飼料用米の活用のほか、堆肥を活用した循環型農業を推進しています。



【公益社団法人中央畜産会 会長賞】



「伊勢美稻豚」

株式会社大里畜産(三重県)

- ISO22000マネジメントシステムで全部門統括管理し、安心で安全な豚肉を提供します。
- 甘みを増した風味のあっさりした美味しい肉が特徴です。
- 今後も、美味しさと安全を保ちつつ、堆肥等の資源循環や耕畜連携を推進し、地産地消に取り組みます。

